



# 小栗判官まつり



大人気の餅まき



出陣に向けて



氣勢を上げる子ども武者



刀を抜き竹を斬る照英さん



よみがえ

## 現世に甦る照手姫

～助重の子孫が演じるお姫様～

『小栗判官』は、小栗地域一帯を治めていた小栗助重と照手姫が、さまざまな困難を乗り越えて結ばれた純愛物語です。その照手姫役を演じたのは、助重が戦乱の末に辿り着いた三河国での子孫とされている小栗治子さん。過去と現在が交わる不思議な縁……。治子さんと小栗判官まつりを結んだ経緯を紹介します。

### きっかけ

お盆に、墓参りをしながらふと「小栗家のルーツはどこだろう」と自身のルーツに疑問を持った治子さん。そのルーツをたどるため、3年前の中学2年の夏に筑西市を訪れました。

その時、ちくせい観光ボランティアガイド協会会長の諏訪光一さんと共に史跡を巡ったことがきっかけで、今回の照手姫役へとつながりました。

当時、ただならぬ縁を感じた諏訪さんは、治子さんに「大学生くらいになったら、照手姫役をやってみないか」と声をかけたそうです。そして今年の夏、実現しました。

### 照手姫役を務めて

「照手姫役を務めさせていただいてたいへん光栄です。こんなにたくさんの人たちを集まってもらい、喜んでもらえて、とてもうれしかったです。自分の祖先のお姫様役をやれるなんて、時代を飛び越えて、何か感じるものがありました」と治子さん。室町時代の風を筑西へ運んでくれました。